

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成21年2月26日(2009.2.26)

【公開番号】特開2007-197627(P2007-197627A)

【公開日】平成19年8月9日(2007.8.9)

【年通号数】公開・登録公報2007-030

【出願番号】特願2006-20431(P2006-20431)

【国際特許分類】

C 0 8 G	59/68	(2006.01)
H 0 1 L	23/29	(2006.01)
H 0 1 L	23/31	(2006.01)
H 0 1 L	33/00	(2006.01)
H 0 1 L	31/02	(2006.01)

【F I】

C 0 8 G	59/68	
H 0 1 L	23/30	F
H 0 1 L	33/00	N
H 0 1 L	31/02	B

【手続補正書】

【提出日】平成21年1月14日(2009.1.14)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項2】

前記(C)のチオールが $C_nH_{2n+1}SH$ , n=9-15であることを特徴とする請求項1に記載の光半導体封止用透明エポキシ樹脂組成物。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0015】

ここで、前記(C)のチオールが $C_nH_{2n+1}SH$ , n=9-15であることが好ましい。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0045

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0045】

また、上記A成分およびB成分とともに用いられるC成分であるチオールを含有する化合物としては、具体的には1-ノナンチオール、1-デカンチオール、1-ドデカンチオール、1-ペンタデカンチオールといった炭素数9~15の $C_nH_{2n+1}SH$ , n=9-15を有している化合物が好ましい。また、さらにこれらのチオール系化合物は、エポキシ樹脂組成物内にて、熱分解、加水分解により、チオール系化合物を生成させてもよい。炭素数が8以下であると、リードフレームに対する接着力が高くなり、16以上の炭素数を持つと、成型性の不具合、Tgの低下が著しくなる。